

## 9. あとがき

平成9年8月、基礎工事業用建設機械及び移動式クレーンによる、社会・公共に及ぼす公衆災害が続発し同年9月、再発防止対策に関し行政等の指導・要請により基礎工事業団体の主体として「全基連」が車両系建設機械（基礎工事業用）運転業務従事者安全衛生教育の実施を全国組織により展開し制度の推進を図ってきた。

制度の企画・運用には行政、災害防止団体、関係他団体、ゼネコン、会員事業者、受講者諸兄等の多大な支援と協力を得て、13年間、166回、2,982社、7,674名の受講者が積極的に参加し制度の定着に至っている。

教育の実施日が、現場施工に支障の少ない日曜日に限定して実施しているため、とくに受講者諸兄の制度に対する認識と安全志向への熱意が顕著であり敬意を表します。

教育の実施に際し、受講者諸兄に過去に危険との遭遇を思い起こし「ヒヤリハット」体験のアンケート報告に協力を頂いた。

アンケートは、	前々回	第1回（H10年～H11年）刊行済
	前回	第2回（H12年～H17年）設問様式変更
	今回	第3回（H18年～H22年）

による。

コスモス（C-OHSMS・労働安全衛生マネジメントシステム）の主体である、「リスクアセスメント手法」による同種災害の再発防止に、受講者自身はもとより同僚、後輩諸兄への警鐘となるよう、現場ごとの特有な危険要因の特定と具体的な対策の事前実施のための参考となるよう活用され、さらには社会・公共に及ぼす事故・災害撲滅の徹底により基礎工事業の信頼回復に繋げることが出来れば望外の喜びです。